

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月11日

【四半期会計期間】 第35期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 株式会社免疫生物研究所

【英訳名】 Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清藤 勉

【本店の所在の場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業統括推進本部長 中川 正人

【最寄りの連絡場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業統括推進本部長 中川 正人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第2四半期 連結累計期間	第35期 第2四半期 連結累計期間	第34期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	271,046	350,181	717,661
経常損失 () (千円)	106,317	108,466	81,797
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失 () (千円)	39,631	111,191	31,898
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	39,631	111,191	31,898
純資産額 (千円)	2,572,336	3,223,413	2,786,374
総資産額 (千円)	2,987,307	4,056,440	3,356,321
1株当たり四半期(当期) 純損失金額 () (円)	6.05	15.37	4.86
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	86.1	79.4	82.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	17,557	86,606	16,984
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	74,033	511,951	607,709
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	60,983	810,798	286,671
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,227,964	1,101,450	891,915

回次	第34期 第2四半期 連結会計期間	第35期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	9.23	6.73

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第34期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、第35期第2四半期連結累計期間及び第34期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間における当社グループのセグメント別の業績は、下記のとおりとなりました。

・診断・試薬事業

研究用関連において、当社の主力製品である抗体関連試薬の売上高は、海外販売において円高等の影響による減少要因がありましたが、国内外の販売数の増加により順調に推移しております。また、受託サービスの売上高は、積極的に直接ユーザーへ販売活動を実施することによりユーザーのニーズをくみ取り、前年に比べ大幅に増加いたしました。

医薬用関連においては、マイコプラズマ感染症の診断薬原料の販売やアルツハイマー病診断薬原料の海外向け販売が順調に推移いたしました。また、自社製造の動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キットの販売において、検査対象の減少が見込まれる等の影響により減少いたしました。なお、当事業においては、新規治療薬シーズの開発や体外診断用医薬品の開発を積極的に行っております。

その結果、当セグメントの売上高は254,544千円（前年同期比26.0%増）となり、買戻し処理が影響した前年同期に比べ増加し、営業利益は44,911千円（前年同期比173.4%増）となりました。

・遺伝子組換えカイコ事業

当事業においては、大手動物医薬品企業及び大手体外診断用医薬品企業からの抗体作製受託サービスの売上や共同研究契約先からマイルストーン契約金の収入などが計上されました。

その結果、当セグメントの売上高は50,516千円（前年同期比231.3%増）、営業損失は115,372千円（前年同期は84,106千円の営業損失）となりました。なお、当セグメントにおいては、新たに前橋研究所を稼働し、アステラス製薬株式会社と遺伝子組換えカイコで生産したヒト型フィブリノゲンを原料とした医薬品の製品化へ向けた共同研究や株式会社CUREDが所有する抗HIV抗体を、当社の遺伝子組換えカイコ技術を用いADCC活性を飛躍的に増強させ、HIV感染症を治癒に導く画期的な抗体医薬品の実用化を目指し共同開発等を積極的に進めております。また、株式会社ニッピとの共同研究により開発した、iPS細胞等の培養足場材として有効であるラミニン511-E8フラグメント（ラミニン511-E8）を研究用試薬として販売を開始いたしました。

・検査事業

当事業においては、主力である、ゲルろ過HPLC法を応用したシステムにより、血中リポタンパク質分画の詳細プロファイリングデータを解析する受託サービス（LipoSEARCH）は、前年度に比べ、国内製薬企業からの大型案件が終了したことにより売上高が減少いたしました。海外販売につきましては、当期より当社グループを挙げて、本格的に海外の学会展示によるプロモーション活動の展開を開始し、順調に売上高が増加しております。また、動物病院におけるコンパニオン・アニマルの診断支援サービス（LipoTEST）は、動物病院の新規顧客獲得のためのセミナー等の活動が終了したこともあり、受注が伸び悩みました。その結果、当セグメントの売上高は43,477千円（前年同期比9.2%減）、営業損失は18,152千円（前年同期は17,923千円の営業損失）となりました。

・化粧品関連事業

当事業においては、当第2四半期より、効率的な広告活動を展開し新規顧客の獲得を目指しております。また、継続してダイレクトメールや電話によるアウトバウンド等の活動を実施しております。

その結果、当セグメントの売上高は5,319千円（前年同期比20.3%減）、営業損失は8,899千円（前年同期は24,387千円の営業損失）となりました。また、販売網の拡大を目指し、大手量販店への営業活動を行ってまいりません。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、350,181千円（前年同期比29.2%増）となりました。利益面においては、遺伝子組換えカイコ事業の研究開発等への積極的な投資により、営業損失が97,032千円（前年同期は

109,509千円の営業損失)、経常損失が108,466千円(前年同期は106,317千円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失111,191千円(前年同期は39,631千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末比20.9%増の4,056,440千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

新株予約権の行使及び金融機関からの新規借入による資金調達等より「現金及び預金」が243,556千円増加したこと、前橋研究所の新設等により有形固定資産が320,084千円増加したこと、出資により「投資有価証券」が79,800千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は前連結会計年度末比46.2%増加し、833,027千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

金融機関からの新規借入により「1年内返済予定の長期借入金」及び「長期借入金」が264,956千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は前連結会計年度末比15.7%増の3,223,413千円となりました。

この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により「繰越利益剰余金」が111,191千円減少したものの、新株予約権の行使により「資本金」及び「資本準備金」がそれぞれ276,077千円増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は前連結会計年度末と比べ209,534千円増加し1,101,450千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は86,606千円(前年同期比69,048千円の支出の増加)となりました。

資金減少要因として、事業活動が低調たったことにより税金等調整前四半期純損失を108,466千円計上したことや、「その他」に含まれる未収消費税が77,267千円増加したこと及びたな卸資産が12,692千円増加しております。一方、資金増加要因としては、非資金項目である減価償却費を60,528千円計上したことや、売上債権が32,512千円減少したこと等によるものがあります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は511,951千円(前年同期比585,985千円の支出の増加)となりました。

この主な要因は、前橋研究所の開設等にかかる有形固定資産の取得による支出が387,583千円発生したことや、出資による投資有価証券の取得による支出が79,800千円発生したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は810,798千円(前年同期比871,781千円の収入の増加)となりました。

この主な要因は、新株予約権の行使による株式発行による収入が545,847千円、銀行からの新規借入れにより長期借入金が330,000千円増加したことによるもの等であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は137,356千円であります。

(6) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は、次のとおりであります。

(新設)

遺伝子組換えカイコ事業において、遺伝子組換えカイコから生産されるタンパク質のGMPパイロット生産拠点が平成28年8月に完成し、前橋研究所として開設いたしました。なお、設備投資額は1,038,564千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,292,590	7,322,590	東京証券取引所 JASDAQ (グロ-ス)	単元株式数100株 完全議決権株式であり、権利内 容に何ら限定のない当社におけ る標準となる株式
計	7,292,590	7,322,590		

(注) 提出日現在発行数には、平成28年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年9月30日	-	7,292,590	-	2,222,422	-	1,254,802

(注) 平成28年10月1日から平成28年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が30,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ11,269千円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
清藤 勉	群馬県高崎市	1,123,700	15.41
株式会社トランスジェニック	福岡県福岡市中央区天神2-3-36	205,000	2.81
岩井化学薬品株式会社	東京都中央区日本橋本町3-2-10	200,000	2.74
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	132,100	1.81
栄研化学株式会社	東京都台東区台東4-19-9	125,000	1.71
株式会社東和銀行	群馬県前橋市本町2-12-6	100,000	1.37
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	98,000	1.34
中沢 和美	神奈川県藤沢市	90,100	1.23
楽天証券株式会社	東京都世田谷区玉川1-14-1	86,800	1.19
金光 秋彦	東京都中央区	79,000	1.08
計	-	2,239,700	30.71

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,288,100	72,881	単元株式数100株 権利内容に何ら限定のない当社における 標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,390		
発行済株式総数	7,292,590		
総株主の議決権		72,881	

(注) 「単元未満株式」には自己株式が30株含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己所有株式) 株式会社免疫生物研究所	群馬県藤岡市中字東田 1091番地1	1,100	-	1,100	0.02
計	-	1,100	-	1,100	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	973,594	1,217,151
受取手形及び売掛金	219,853	187,340
商品及び製品	47,109	51,914
仕掛品	127,505	128,463
原材料及び貯蔵品	99,198	106,128
その他	17,837	94,700
流動資産合計	1,485,099	1,785,698
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	444,906	1,175,740
機械装置及び運搬具（純額）	14,202	105,003
土地	362,687	362,687
建設仮勘定	680,580	-
その他（純額）	71,191	250,220
有形固定資産合計	1,573,567	1,893,651
無形固定資産		
のれん	156,829	152,283
その他	20,977	20,692
無形固定資産合計	177,806	172,975
投資その他の資産		
投資有価証券	55,234	135,034
その他	64,613	69,081
投資その他の資産合計	119,848	204,115
固定資産合計	1,871,222	2,270,742
資産合計	3,356,321	4,056,440
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,877	4,405
1年内返済予定の長期借入金	80,088	146,088
その他	77,884	78,403
流動負債合計	164,850	228,897
固定負債		
長期借入金	203,132	402,088
転換社債型新株予約権付社債	200,000	200,000
その他	1,964	2,041
固定負債合計	405,096	604,129
負債合計	569,946	833,027
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,946,344	2,222,422
資本剰余金	978,724	1,254,802
利益剰余金	142,520	253,711
自己株式	1,990	1,990
株主資本合計	2,780,558	3,221,523
新株予約権	5,816	1,890
純資産合計	2,786,374	3,223,413
負債純資産合計	3,356,321	4,056,440

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	271,046	350,181
売上原価	101,481	146,563
売上総利益	169,564	203,618
販売費及び一般管理費	279,073	300,651
営業損失()	109,509	97,032
営業外収益		
受取利息	140	82
受取配当金	-	600
助成金収入	3,285	-
未払配当金除斥益	-	687
その他	1,002	719
営業外収益合計	4,427	2,089
営業外費用		
支払利息	1,097	1,083
新株発行費	-	2,382
為替差損	138	10,043
その他	-	14
営業外費用合計	1,235	13,523
経常損失()	106,317	108,466
特別利益		
投資有価証券売却益	69,566	-
特別利益合計	69,566	-
税金等調整前四半期純損失()	36,751	108,466
法人税、住民税及び事業税	2,880	2,724
法人税等合計	2,880	2,724
四半期純損失()	39,631	111,191
非支配株主に帰属する四半期純損失()	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失()	39,631	111,191

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純損失()	39,631	111,191
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	39,631	111,191
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	39,631	111,191
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	36,751	108,466
減価償却費	36,201	60,528
のれん償却額	4,545	4,545
受取利息及び受取配当金	140	682
支払利息	1,097	1,083
為替差損益(は益)	604	7,891
新株発行費	-	2,382
投資有価証券売却損益(は益)	69,566	-
売上債権の増減額(は増加)	118,461	32,512
たな卸資産の増減額(は増加)	8,793	12,692
仕入債務の増減額(は減少)	5,623	2,472
返品調整引当金の増減額(は減少)	38,738	-
その他	27,518	65,685
小計	14,974	81,054
利息及び配当金の受取額	125	649
利息の支払額	1,076	1,433
法人税等の支払額	1,632	4,768
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,557	86,606
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金等の預入による支出	33,860	63,566
定期預金等の払戻による収入	-	21,358
有形固定資産の取得による支出	60,916	387,583
無形固定資産の取得による支出	1,231	2,218
投資有価証券の売却による収入	170,366	-
投資有価証券の取得による支出	-	79,800
その他	324	142
投資活動によるキャッシュ・フロー	74,033	511,951
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	-	330,000
長期借入金の返済による支出	53,364	65,044
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	545,847
新株予約権の買入消却による支出	7,551	-
その他	67	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	60,983	810,798
現金及び現金同等物に係る換算差額	261	2,705
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,245	209,534
現金及び現金同等物の期首残高	1,232,210	891,915
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,227,964	1,101,450

【注記事項】

会計方針の変更（「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」の適用）

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	
法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。	
この結果、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ5,881千円縮小しております。	

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。	

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
賞与引当金繰入額	4,678 千円	4,773 千円
研究開発費	98,523 "	137,356 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	1,307,090千円	1,217,151千円
預入期間が3か月を超える定期預金	79,126 "	115,700 "
現金及び現金同等物	1,227,964 "	1,101,450 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。
3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第2四半期連結累計期間において新株予約権の行使に伴う新株発行を実施いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ276,077千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,222,422千円、資本剰余金が1,254,802千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品 関連事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	201,588	15,225	47,558	6,673	271,046	-	271,046
セグメント間の 内部売上高又は振替高	451	25	300	-	777	777	-
計	202,039	15,250	47,859	6,673	271,823	777	271,046
セグメント利益又は損失 ()	16,428	84,106	17,923	24,387	109,989	480	109,509

- (注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
2. セグメント利益又は損失の調整額480千円には、セグメント間取引消去480千円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品 関連事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	253,235	50,510	41,117	5,319	350,181	-	350,181
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,309	6	2,360	-	3,675	3,675	-
計	254,544	50,516	43,477	5,319	353,857	3,675	350,181
セグメント利益又は損失 ()	44,911	115,372	18,152	8,899	97,512	480	97,032

- (注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
2. セグメント利益又は損失の調整額480千円には、セグメント間取引消去480千円が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「診断・試薬事業」のセグメント利益が45千円増加し、「遺伝子組換えカイコ事業」のセグメント損失が5,836千円縮小しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	6円05銭	15円37銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	39,631	111,191
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	39,631	111,191
普通株式の期中平均株式数(株)	6,546,489	7,233,317

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月11日

株式会社免疫生物研究所
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	桂	川	修	一	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉	田	英	志	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社免疫生物研究所の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社免疫生物研究所及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。